

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「夢創造」の教育力と確かな進路実現力を持つリーディング工科高校

1. 「確かな学力」を身につけた社会に貢献できる「ものづくりリーダー」を育成する。
2. 規律・規範の確立と豊かな心を育む教育により、自律心や人を思いやる心を持つ生徒を育成する。
3. 教員の資質向上を図るとともに、学校の組織力向上に努める。
4. 地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。

## 2 中期的目標

めざす学校像の実現に向け以下の取組みを行う。

## 1 「確かな学力」の育成

- (1) 知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性の涵養を図り、社会に貢献できる「ものづくりリーダー」を育成する。
- ・ 家庭学習の習慣を各教科で検討し、令和4年度には生徒向け学校教育自己診断「家庭学習時間1時間以上」を25%以上にする。  
(H29-13%・H30-20%・R01-16%)
  - ・ 課題研究や総合的な探究の時間等を活用し、「自ら問題を見つけ出し、よりよい答えをつくり、提案する」力を育成する。生徒自治会行事などで生徒の自主的活動の活性化に取り組む。
  - ・ 部活動について生徒自治会や顧問を中心に活性化を図り、令和4年度には部活動加入率60%以上にする。  
(H29-62%・H30-54%・R01-53%)
- (2) 基礎学力の定着を図り、専門性の深化と高等教育機関への接続に対応した教育の充実に努める。
- ・ 外部テストの活用、講習・補習や土曜講座の実施等により、生徒の基礎学力の向上に努める。
  - ・ 工学系大学進学専科の授業内容や取組み等を充実し、さらなる生徒の進路実現を図る。
  - ・ 各系において企業、外部機関、大学等と連携した教育活動を行う。
  - ・ 高度な資格や検定の取得向上に努める。

## 2 規律・規範の確立と豊かな心の育み

- (1) あらゆる教育活動を通じて社会人基礎力が身につくよう指導するとともに、生徒の進路実現（就職・進学）100%を維持する。  
(H29-100%・H30-100%・R01-100%)
- ・ 3年間を通じたキャリア教育や進路指導を計画的に推進する。
  - ・ 適切な就職指導により就職一次内定率85%以上を維持する。(H29-83%・H30-88%・R01-87%)
  - ・ 離職率調査を継続し、その結果をキャリア教育や進路指導に活用する。
- (2) あらゆる教育活動を通じて人権尊重の教育を進めるとともに、規律ある学校生活ができるよう教員全員で指導に努める。
- ・ 各系・分掌・教科・学年団等の連携を充実し、中退者・留年者の減少に努め、中退率0.3%以下、原留率1.0%以下にする。  
(H29-中退率0.9%、原留率1.5%) (H30-中退率0.4%、原留率1.2%) (R01-中退率0.3%、原留率1.3%)
  - ・ 「おはよう運動」、挨拶の徹底、清掃美化活動に取り組み、生徒の基本的な生活習慣の確立に努める。
  - ・ 人を思いやる心を持つ生徒を育成するとともに、「いじめ」の未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。

## 3 教員の資質向上と学校の組織力向上

- (1) 豊かな経験を持つ教員による研修や研究授業を推進するとともに、外部研修を積極的に推奨し、教員の資質向上に努める。
- (2) 経験年数の少ない教員を中心に実践的な研修計画を立てるとともに、各系・分掌・教科・学年団等においてOJTを推進する。
- (3) 教職員が情報や課題を共有するとともに、スムーズに課題解決に取り組むことができる学校運営体制の確立に努める。

## 4 地域に信頼される開かれた学校づくり

- (1) 地域と連携した取組みやボランティア活動などの地域貢献に努め、地域に信頼される教育の充実に努める。
- (2) 専門高校としての特色ある教育内容について、広く府民への情報発信や学校PRに努める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年1月実施]	学校運営協議会からの意見
<p>■生徒用集計結果で肯定率の高いもの (80%以上)</p> <p>①「先生は親身になって対応してくれる」 87% (R1-80%)</p> <p>②「この学校には、他の学校にない特色がある」 91% (R1-89%)</p> <p>③「先生は協力して生徒指導にあたっている」 82% (R1-87%)</p> <p>④「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」 92% (R1-88%)</p> <p>⑤「校内では規則・ルールが守られている」 88% (R1-85%)</p> <p>⑥「学校はいじめを無くし、防止しようとしている」 84% (R1-84%)</p> <p>⑦「校内では、挨拶がかわされている」 94% (R1-90%)</p> <p>■生徒用集計結果で肯定率等の低いもの</p> <p>①「将来の進路に不安がある」 48% (R1-51%)</p> <p>②「授業以外の学習時間が1時間以上の生徒の割合」 22% (R1-16%)</p> <p>【方針と対策】 学校教育自己診断は、生徒・保護者・教職員の意識を把握・比較し、課題を明確にし、PDCAサイクルで改善していくための重要なツールである。特に肯定率等の低い項目について、課題を教職員全員が認識・共有することで、改善に向けて具体策を検討していく。</p>	<p>■第1回 (7/13)</p> <p>○ホームページについて・・・改定の目標日程があるのではと思います。</p> <p>○新教育課程の検討について・・・どこかに入れてあった方がよいと思いました。</p> <p>■第2回 (12/2)</p> <p>○進路指導について・・・大学について、昨年の進学状況をみても工学系設置の狙いは達せられてきていると感じる。就職に関して、今年度の成功の要因を分析し、次年度以降に活かせるようにすることが非常に重要と考えます。</p> <p>○生徒指導について・・・生徒が落ち着いた環境で、安心して学べることを確保できていることも、広報に活かして戴きたい。</p> <p>○授業改善について・・・工科高校がICT環境でリードし、授業改善に取り組むことに期待している。</p> <p>○ホームページについて・・・ホームページは以前よりも明るいイメージになっている。PBLの取り組みなどは、いい内容で見る人に大きな関心を呼ぶと思う。</p> <p>■第3回 (2/26)</p> <p>○進路指導について・・・就職の内定状況は評価できる。工学系設置の結果も出せている。</p> <p>○学校教育自己診断について・・・全体的に良い評価である。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1) ・家庭学習の習慣化 ・生徒の自主的活動の活性化 ・部活動の活性化  (2) ・基礎学力の向上 ・企業や大学等との連携 ・高度な資格取得	(1) ・各教科で調べ学習と発表を推奨する。 ・各系課題研究発表会および全系合同課題研究成果発表会の実施。 ・部活動紹介等により部活動加入を推進する。  (2) ・外部テストの学力向上等への活用 ・少人数展開授業の推進と講習の充実 ・土曜講座（飛翔教室）の充実 ・全系において企業、外部機関、大学等と連携した教育活動を実施する。 ・資格取得の取組みを推進する。	(1) ・学校教育自己診断「学校満足度」90%以上 （R1年度86%） ・学校教育自己診断「家庭学習時間1時間以上の生徒」20%以上（R1年度16%） ・合同課題研究成果発表会生徒アンケート肯定率80%以上（R1年度は中止） ・部活動加入率55%以上（R1年度53%）  (2) ・外部テスト結果の学習到達ゾーンC以上50%以上（R1年度45%） ・土曜講座実施回数年間12回以上（R1年度12回） ・全系が企業・大学等と連携事業を実施 ・資格取得件数の5%増加（R1年度750件）	(1) ・学校教育自己診断「学校満足度」88%（○） ・家庭学習時間1時間以上の生徒22%（○） ・合同課題研究発表会は、新型コロナの影響で中止にしました。（-） ・部活動加入率55%。（○）  (2) ・C以上38%（△） ・土曜講座 新型コロナの影響で1回実施。（-） ・全系で企業・大学等との連携事業を実施（○） ・第一種電工10名、第二種電工73名、建築施工管理技士試験合格32名（○） ・R2資格取得数 新型コロナの影響で受験の機会が減少しました。453件（-）
2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	(1) ・キャリア教育、進路指導の推進 ・就職指導、進学指導の充実 ・離職率調査の活用  (2) ・人権教育の推進 ・基本的生活習慣の確立	(1) ・各学年団と進路指導部によるキャリア講演会、見学会、進路ガイダンスの充実 ・企業訪問、求人情報等の収集、および面接の事前指導の強化 ・講習や進学相談等により進学指導を充実 ・離職率調査を実施し、進路指導に活用する。  (2) ・教職員人権研修を推進し、教員の豊かな人権意識を醸成する。 ・「おはよう運動」の継続と強化で遅刻減少。 ・3Sポスター掲示等で校内美化を定着。	(1) ・就職・進学ともに進路決定率100%継続 ・就職1次内定率85%以上を維持 （R1年度87%） ・SPIテスト平均65以上（R1年度61.2） ・卒業後3年全員の離職率調査の実施 （R1年度離職率調査結果9.0%）  (2) ・教職員人権研修2回以上実施（R1年度2回） ・中退率0.3%以下、原留率1.0%以下 （R1年度0.3%、原留率1.3%） ・遅刻を10%減（R1年度1014件） ・生徒向け学校教育自己診断「校内清掃がいきとどいている」肯定率70%以上（R1年度65%）	(1) ・805件947人（求人倍率4.9倍）の求人（○） ・就職内定率100%（○） ・就職1次内定率87%（○） ・進学率95%（○） ・大教大1名・関大1名・立命大2名・近大4名・大工大8名・電通大6名の進学実績（◎） ・公務員4名合格（○） ・3年7月SPI平均58.7（△） ・3年前卒業生の離職率調査結果32%（△）  (2) ・教職員人権研修 新型コロナの影響で1回実施（○） ・中退率0.9%、原留率0.6%（○） ・朝の校門指導（おはよう運動）を実施。 遅刻年間495件（○） ・「校内清掃がいきとどいている」73%（○）
3 学校の組織力向上 教員の資質向上	(1) 研究授業等の推進  (2) 新採教員等の育成  (3) 学校運営体制の確立	(1) ・ICT機器活用のための講習会や研究授業を実施する。  (2) ・新任教員等、経験年数の少ない教員の校内研修を充実する。  (3) ・スムーズに課題解決に取り組むことができるよう学校運営体制の検証および改善に取り組む。 ・教職員の「働き方改革」の取組みについて、安全衛生委員会等で検討する。	(1) ・ICT機活用のための研究授業等を年2回以上実施する。（R1年度2回）  (2) ・経験年数の少ない教員の校内研修を年間3回実施する。（R1年度3回）  (3) ・学校運営体制の検証および改善に取り組む。 ・毎月の安全衛生委員会等で、「働き方改革」の取組みについて検討する。 ・教員の年間一人当たりの平均時間外在在時間を240時間以内とする。（R1年度306時間）	(1) ・プロジェクター等のICT機器の整備とICT機器活用の研究授業を2回実施。（○）  (2) ・経験年数の少ない教員の研修会等を3回実施。（○）  (3) ・各種委員会の再編を検討中。（○） ・分掌業務の軽減及び再編を検討している。 1月末までの平均時間外在在時間は150時間（○）
4 地域に信頼される開かれた学校づくり	(1) 地域連携と地域貢献  (2) 専門高校としての特色を情報発信	(1) ・出前授業やボランティア活動などの地域貢献に努める。  (2) ・中学校教員向け説明会を開催する。 ・1年生の出身中学校への訪問を実施する。 ・教員で中学校への訪問を実施する。 ・本校独自の説明会（部活動紹介を含む）を実施する。 ・各種説明会に参加する。 ・ホームページを改定する。	(1) ・実習に関する出前授業の実施3回以上。 （R1年度10回）  (2) ・中学校教員向け説明会を年に4回開催する。 （R1年度4回） ・1年生の出身中学校訪問40名以上 （R1年度31名） ・教員の中学校訪問80校以上 （R1年60校） ・学校独自説明会等8回（R1年度10回） ・中学校、地域主催等説明会年間20回以上に参加 （R1年度24回） ・ホームページを改訂する	(1) ・実習に関する出前授業の実施8回（○）  (2) ・新型コロナの影響で、各種PR活動を変更したため、専門5系及び各クラブが、ホームページにて、PR動画を公開した。1月末現在の閲覧回数約83000回。また、府内中学校430校に対して、学校PRのDVDを郵送した。さらに、中学校からの問い合わせに応じて個別の学校見学を30回実施。中学校訪問は30校（○） ・ホームページの改定作業は、ほぼ終了。随時バージョンアップ中。（○） ・課題研究等で、西成区のイベント参加や西成警察署の防犯グッズ作成等で地域に貢献した。（○）